

桜花の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員の皆様には、恙なくお過ごしのことと大慶に存じます。この3年間、世界中で猖獗を極めた「新型コロナ」も来月からは第5類へと格下げされ、マスク装着等も自己判断とはなりましたが、やはり人目も気になり混雑する場所等では中々外す勇氣は湧きません。

さて先月の自衛隊関連行事はコロナの軛から解放された事もあり、様々なイベントが再開され始め、3月7日に我等の国分教育隊入隊50周年記念行事が霧島キャッスルホテルにて開催され、その面影を一部に残した50年前紅顔の美少年共が一同に会した次第です。

私が入隊した昭和48年と云えば、前年の沖縄返還に伴い国会で自衛隊配備が強行採決され、米軍がベトナムから撤退し、長沼ナイキ訴訟では自衛隊違憲判決が下され、オイルショックや日本赤軍の暗躍など、何だか世の中が騒然とした時代だったような気がします。

そして3月18日には高等工科大学66期生徒卒業式が横須賀の武山駐屯地で挙行され、雨天のため屋外の送別パレード中止でしたが、浜田防衛大臣や吉田陸幕長などご臨席の下、3年間で大きく成長した328名の若桜は、雄々しく各赴任地へと巣立って行きました。

この陸上自衛隊高等工学校は令和10年度からは女子生徒も入校を許可され、陸海空全自衛隊の宇宙サイバー要員育成機関として大きく改編されようとしており、皆様の周囲に5年後15、6才となる子女がいたら、是非とも進路の一つに検討する事をお勧めします。

また26日は先月の宮崎支部総会にもご臨席賜りました黒子宮崎地本部長を表敬訪問し、自衛隊家族会宮崎支部の運営等についてご相談をして、ご意見等をお伺いした処です。

更に25日は3年ぶりの都城駐屯地観桜会が開催され、やはり宮崎支部総会にご臨席頂きました谷43連隊長や小原副連隊長等と、楽しく懇親を深めることが出来ました。

ところで岸田総理のウクライナ電撃訪問には驚きましたが、用意周到にそして秘密裏に事を運ぶ困難さを垣間見て、そこに携わったスタッフのご労苦を付度した次第です。

現憲法の制約下では、戦地に足を踏み込むことが出来ぬ自衛隊の最高指揮官である日本の首相が、警備等も当時国任せの中で行動する危険や矛盾等を、我々国民は如何に理解すれば良いのか判然とせず、やはり大至急憲法を改正せねば解決できぬ事が多すぎます。

ドイツやポーランド、そしてイギリス等の欧州各国から陸続と最新型の戦車等が届けられ、プーチンやロシア兵等は戦々恐々として眠れぬ夜を過ごしているかと思いきや、今度はベラルーシに戦術核兵器を配備するなど、相変も変わらず核の恫喝には全く余念が無く、有り体に言えばロシアに遺された手段はそれしか無いと云う事なのでしょう。

令和5年4月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小 倉 和 彦